

ITN	ITN 比較	各回 レイティング	一般的な競技レベル	サーブ	リターン	ベースラインゲーム	アプローチ/ネットプレイ	ネットプレーヤーをパスする
1	エリート		・ATP/WTAランクの保持者、または可能性のある者 ・国際水準のトーナメントに参加し、主たる収入がトーナメントの資金であるワールドクラスのプレーヤー ・大規模なロトーナメントの経験がある					
2			・相手の弱点を分析し、見抜くことができる ・戦略とプレースタイルを理解すれば、プレッシャーの在る状況で自信を持つショットができる。 ・通常、その国の上位ランキング者	・1stと2ndサーブがフレッシャーのある状況で打て、いつも攻撃的に打てる。	・フォア、バック両サイドの予測力がついている。 ・相手の準備動作、トス、バック・スイング、身体の位置から手がかかるところをつかめる。	・フレッシャーのある状況で自身のあるショットが打てる。 ・フォアハンド、バックハンドで攻撃、逆襲、防御を効果的にできる。 ・あらゆる種類のショットをプレーできる。	・スライス、またはドライブのアプローチができる。 ・ネットでの予測がよく、コートセンスがよい。 ・強烈にアングルを使い、あるいは深くプレーできる。 ・攻撃的なボレーができる。 ・スマッシュは、必ずウイナーである。 ・バックハンドオーバーヘッドスマッシュが強力。	・両サイド、そしてサーブのリターンでその場に応じ、上手くパスする。 ・2ショット、バッシング、コンビネーションを効果的に使える。
3	上級者		・優れたショットの予測と優れたショットを有し、安定性、あるいはゲームの基本となる特質を持っています。 ・プレーヤーは、「試合万能者」つまり、サービステクニクスを、サービス・リターンエースを必要とするときに打て、あるいは、ショートボールでサービス・リターンのエラーを引き出せる。	・サーブは、相手の弱点に打たれ、あるいは、攻撃的な状況に展開するために、効率的に打たれる。 ・信頼できるサーブの種類を持つ。 ・十分な速さ、スピンドしてプレー・メントで確実なリターンをめぐる、あるいは、次のショットを組み立てるための2ndサーブを持つ。	・攻撃的そして、オフ・ベースなサービスリターンを、コントロールでき、深く、スピンを混ぜて打てる。	・フォアハンド・ストロークは、コントロール、速さ、スピンドを伴う、強力。 ・攻撃的な状況を作り出すためにフォアハンド・ストロークを使う。 ・安定した攻撃としてバックハンド・ストロークを使う。 ・ほとんどどのショットが十分な速さと、方向性を持つ。 ・タップショットを習得している。 ・スピンドの種類がある。	・アプローチショットは、ベースと高い有効性をもって放たれる。 ・ほとんどどのボレーは、深さとベースと方向性を持つで打球される。 ・深い、難しいボレーをプレーできる。 ・チキンは、ボレーは、ウイナーとして打球される。 ・スマッシュは、どこからでも打てる。 ・安定性のあるミッドコートボレーを打球できる。	・バッシング・ショットが安定し、ベースと高い有効性を持って、バッシング・ショットを打てる。 ・攻撃的なロブができる。
4			・安定したプレーで、効果的に加速、スピンドをかけ、ベース分岐ができる。 ・優れた、正しいフォトワークができる、弱点をよく、カバーできる。 ・ショットの選択をコントロールでき、相手に応じてゲーム・プランを変化させる。 ・難しいショットに対して、不確かではあるが、1stサービスの「パー」と正確な2ndサービスのコース打ちが可能。 ・ダブルスにおいて、攻撃的なプレーができる。	・攻撃的なサーブを持ち、ダブル・フォールが少ない。 特に1stサーブのとき、攻撃的な組み立てをするために、パワーとスピンド・サービスを効果的に使える。	・組み立てに1stサーブのとき、攻撃的な組み立てができる。 ・2ndサーブがよい位置に深く打つことができる。	・非常に安定した(自信ある) ・ダブルスにおいて、普通にベースを走ることでできる。 ・チキンは、深さと方向性を持つ。 ・ダブルスでいいいろいろなリターンができる。	・アプローチショットは、深く、コントロールされ、打球される。 ・通じたボレーを振る。 ・バックハンドボレーで、深さがあり、方向のコントロールが良い。 ・ボレーを決めるためにボレーとスマッシュを安定して打球できる。 ・タップショットを習得し、フットワークに優れる。だが最も一般的なエラーは、オーバーヒッティング。	・防衛的、そして攻撃的なロブを打てる。 ・かなり高い確率でネットプレーヤーをパスできる。
5			・優れた安定性(速かなグラウンドストローク)、普通のショットでフォア・ハンド、バックハンド両サイドの方向と距離のコントロールができるが、ブレーは、衰弱でなくミスする。 ・ロブ、スマッシュ、アプローチショット、ボレーが使え、時々、成功する。 ・コートカバリングを習得中で経験をつみ、戰術に注意を払うが、まだ優れたサービス・リターンテクニックをプレーできない。 ・時々、サーブのとき、サービスリターンのエラーを引き出せる。 ・ダブルスのチームワークが運営できる。	・1stと2ndサーブのフレースメントがよい。 ・1stサーブが、しばしばパワフルである。 ・スピンドを折り、使うことができる。	・信頼できるサービス・リターンができる。 ・シングルスで、深いリターン、ダブルスでいろいろなリターンができる。	・フォアハンド・ストロークは、実現し、中程度のスピードで深さヒントコントロールできるが、プレッシャーのあるとき、コートの部分ができない。 ・バックハンド・ストロークは、中程度のスピードで安定して、ボールの方向性がいい。 ・スピンドを習得し、トップスピンド・スライス両方を打てる。	・ネットで攻撃的なショットを前進する。 ・フォアハンド・ボレーの速さとコントロールがある。 ・バックハンド・ボレーの方向性は高いが、一般的に精度を欠く。 ・両サイドのワイドのボレーと低いボレーを打球できるように練習中。 ・両手はスマッシュを発揮できる。 ・ダブルスのボレーができる。 ・ボレーを決め始めた。 ・相手の弱点に打球する。	・速いショットに対し、防衛的なロブを打ち、攻撃的なポイントの組み立てを行う。
6	中級者		・普通のショットの方向コントロールの安定性を持つ。改良されたストロークを習得中だが、深さと変化がまだコントロールできない。 ・コートカバーが上達しているが、前に出る時、まだためらっている。 ・ダブルスのチームワークが運営できる。	・コントロール・サーブと、しばしばパワーサーブを開始。 ・スピンドを習得中。	・中程度のベースで方向性のコントロールのある安定したサービスリターンができる。	・フォアハンド・ストロークは、確実に安定し、中程度のスピードで変化をつけ、方向性が高く、スピンドを加える。 ・バックハンドは、中程度のショットで方向のコントロールを使って打球されるが、高く、そしてハーフショットに対して、難があり、防衛的な運営となる。 ・バックハンド・ドライブかスマッシュの一方を極端に使う。	・アプローチショットを習得し、ネットに出るチャンスを狙し始める。 ・より攻撃的なネットプレー。 ・フォアハンド・ボレーの方向性を持つ、バックハンドボレーを久く。 ・ローボレー、ワイドボレーが嬉しい。 ・両手、ボジョイントから外れ、大きすぎるスイングをしてしまう。	・高いベースのショットで、かなり安定したロブを打ち、攻撃的なボートを打てる。 ・基本的なバッシング・ショット能力を習得するが、バックハンドのバスが難い。
7								
7	中級者		・普通のベースのショットにかなりの安定性を持つ。全てのショットをうまくプレーできず、方向性、深さ、パワーのコントロールを失く。 ・シングルスの試合は、ベースライン全体に亘り、最も一般的なダブルスのフォームーションは、一人が後衛、他の一人が前衛。	・リズムを習得中だが、パワー・サーブのとき、不安定。 ・2ndサーブは、1stサーブよりもかなり遅い。	・かなりの変更性を持つて大部分がコートの中央にリターンできる。	・フォアハンドは、万能性に集中し、かなりの安定性を持つが、深さのコントロールに乏しい。 ・バックハンドは、中程度のショットで方向のコントロールを使って打球されるが、多く、そしてハーフショットに対して、難があり、防衛的な運営となる。 ・バックハンド・ドライブかスマッシュの一方を極端に使う。	・ブレーが區別するとき、ネットにアプローチするがそれを実行するためには習得が必要。 ・安定したフォアハンドボレーを持つが、バックハンドボレーの安定性を欠く。 ・ローボレー、ワイドボレーが嬉しい。 ・両手、ボジョイントから外れ、大きすぎるスイングをしてしまう。	・中程度のショットでかなり安定したロブを打ち、ドライブの変わりにサービス・リターンにロブを使う。
8			・ボールがどこに飛ぶか判断することを学ぶが、コートカバリングは、まだかなり習熟する必要。 ・同じレベルのプレーヤーとプレーするとき、このプレーヤーは、かなりの安定性を持つて、ストロークのショットリリーができる。 ・ダブルスのとき、初歩的なダブルスのポジションを確立する。 ・このプレーヤーは、試合のプレーに没頭する。 ・基本的なルールとコアの守り方を学ぶ。	・フルスイングを試みる。 ・1st、2ndサーブのペースの違いがほとんどない。 ・ストロークでボールをインプレーできる。 ・安定したストスが必須。	・ストロークのサーブに対しリターンができる。 ・低いフォロースルーが多い。	・フォアハンド・ストロークは、実現し、中程度のスピードで変化をつけ、方向性が高く、スピンドを加える。 ・バックハンドは、中程度のショットで方向のコントロールを使って打球されるが、高く、そしてハーフショットに対して、難があり、防衛的な運営となる。 ・ローボレーが区別する。	・必至に追られたときだけ、ネットにアプローチするがそれを実行するためには習得が必要。 ・安定したフォアハンドボレーを持つが、バックハンドボレーの安定性を欠く。 ・ローボレー、ワイドボレーが嬉しい。 ・両手、ボジョイントから外れ、大きすぎるスイングをしてしまう。	・ロブを習得始めるが、コントロールに乏しい。 ・ある程度の自信を得るためにネット練習の時間がかかる。 ・特にバックハンド両サイドのネットでの自信がなく、バックハンドボレーを使うとき、ラケット面のフォアハンドサイドを使ってしまう。
レクリエーションナル プレーヤー			・コートでの経験が必要。 ・ストロークは、時々、成功するが、ストロークの弱さは、明らか。 ・シングルス、ダブルスのプレーで、基本的なポジションは取れるが、さらにいいポジションをとる必要があり、また、ベースラインとのプレーを好み。 ・このプレーヤーは、試合のプレーに没頭する。 ・基本的なルールとコアの守り方を学ぶ。	・サービスの動作が神こかでなく、さらにコーディネーションが必要。 ・頻繁にダブルフォロールをする。	・無駄なエラーを減らすために安定したサービスが必要。 ・フォアハンド・ストロークでリターンの大半を行おうとする。	・フォアハンドは、より実際なスイングとより方向性への集中を必要とする。 ・バックハンドでプレーすることを避け、バックハンドサイドの技術的な問題(例: グリップ、スイング、コントクト)を経験する。	・ロブを習得始めるが、コントロールに乏しい。 ・很大程度の自信を得るためにネット練習の時間がかかる。 ・特にバックハンド両サイドのネットでの自信がなく、バックハンドボレーを使うとき、ラケット面のフォアハンドサイドを使ってしまう。	・初めてロブを打つのが難しい。 ・バスに慣れていない、相手の正面に向かってボールを打ってしまう。
9								
10			・このプレーヤーは、正式な大きなコートで、ITF公認のボールを使用して、競技としてのプレー(サーブとリターン、ラリー)ができるようになる。					
10.1			・プレーヤーは、動き、コントロールしてプレーができる。					
10.2	初心者		・プレーヤーは、来たボールに反応して、きつと打球しながら、簡単なテクニクスのスキルを行えるが、動きと、コントロールをしてプレーはまだできない。			ITN10.1からITN10.3までのカテゴリーは、通常緩和された環境、つまり、小さいコートややわらかいボールを使用する、あるいは適切な、プレーヤーに合ったラケットを使用する環境でプレーすることを含む。		
10.3			・プレーヤーは、テニススキルの育成の初期段階で、単純なテクニクスのコーディネーション/エキサイツを初めて学ぶ。					

※ 旧レイティングの4.0は、ITNスタンダードでは6.0に相当する

※ 指導員養成講習会受講者の実技レベル目安は、ITNスタンダードで6.0程度あることが望ましい。

※ 上級指導員養成講習会受講者の実技レベル目安は、ITNスタンダードで5.0程度あることが望ましい。